

gooddays

Vol. **25**

around KANDA NISHIKI - CHO
New Culture & Alternative Lifestyle

2021 SUMMER ISSUE
PRICE 0 YEN

「神田らしいアートスタイルとは？」





around KANDA NISHIKI - CHO

Special Issue **25** Summer '21

神田らしい アートスタイルとは？

TEXT・Runa Kitai / PHOTO・Yuta Suzuki

もともと学生街として栄え、今では古書をはじめ楽器やスポーツなどの専門店が集まるこの界隈は、ちょっとディープなカルチャーの街。昔からクリエイティブな文化人が集まるこのエリアには、インスピレーションをかき立ててくれる、ここにしかないアートスポットが数多くあります。

アートの歴史をトリップできる世界的にファンの多

いアート古書店や、今も昔もアーティストが足繁く通う画材店、“第9の芸術”としても名を馳せる漫画に特化したホテルまで、多種多様なアートがクロス。街を歩けば、歴史を刻んだ由緒ある建物や橋に出会える一方で、老舗ギャラリーの外壁にはお宝級ともいえるストリートアートが大胆に描かれている。古いものはなんだか新鮮で、新しいものはなんだか懐かしい。そんな時代を超えたインディペン

デントなアート作品に溢れたこの街は、ただ歩くだけでワクワクが止まりません！

今号では、アートのボーダーラインを自由に行き交う新世代の神田アートのスタイルを、個性豊かなアートスポットとともにご紹介します。



GOOD DAYS STORY
Vol.
28

Message from
Shigesato Itoi



神保町は、専門古書店の多い町です。もともと小宮山書店は、歴史や文学を扱う古書店でしたが、自分自身はアートが好きで、自然にアートやファッションなどのジャンルを集めるようになりました。店内の各フロアには、ファッション、アート、エロティックアート、日本文化に関する書籍や写真集、雑誌の他、フォトプリントやポスター、アート作品など、さまざまなものが並んでいます。やるならば、あまり市場にないものを取り扱いたい、本当に自分が欲しいと思うものを紹介したいと思い、アンダーグラウンドの作品も多く扱うようになりました。

取り扱いのあるアーティストは、三島由紀夫や横尾忠則、寺山修司、森山大道、荒木経惟など、一時代を築いた偉人たちははじめ、若手のアーティストも多数。アーティストたちを点と捉えて、点と点を結び、そこに古書店ならではの視点で時代性を可視化させることで、アーティストの相関図が球体のようにイメージでき、カルチャーの全体像を捉えることができる。店内はそういう見せ方でフロアを展開しています。洋服屋に行って、香水やアクセサリを買ったりするように、グラフィックアートを買いに来たお客さん

時代もジャンルも国籍も超えた、
ここにしかない新たな文化を創造する。

がそれに合う写真集を見つけたり、立体的な作品に興味を持ったり、そんなミックスカルチャーの面白さをより多くの人に伝えたいと思っています。

また、海外の方にも日本のカルチャーを知ってもらいたいと思い、「Paris Photo」、「Offprint London」、「NY/LA Art Book Fair」など世界的なフォトフェア、ブックフェアにも積極的に参加しています。一方で、海外の面白いものを日本に持ち帰ることも、ここ10年ほど続けています。書店としては珍しいかもしれませんが、プライマリーアーティストの個展やアートイベント「REAL TOKYO ART」も開催しています。お笑い芸人としても活躍するCOOKIE(野性爆弾/吉本興業)や、国際的な人気を誇る天野タケルなど、参加するアーティストは個性豊かな顔ぶれです。これからも、熱心に活動するアーティストをサポートしながら、過去の秀逸な作品に新しい価値を見出し、書店でもなくギャラリーでもない、「KOMIYAMA TOKYO」という唯一無二のジャンルを築きたいと思っています。

小宮山書店

千代田区神田神保町1-7
月～土 12:00-18:30、日祝 12:00-17:30
www.book-komiyama.co.jp



小宮山慶太 Keita Komiyama

小宮山書店 代表取締役 CEO

1939年創業の古書店「小宮山書店」の三代目。高校大学ではデザインを学び、23歳から小宮山書店で働く。全6フロアからなる店内では、ファッションやアート関係の書籍や写真集の販売、アート作品の展示会も開催。従来の古書店の概念を壊し、本屋でもギャラリーでもない「KOMIYAMA TOKYO」という新たなジャンルのショップを目指す。

個性派揃いの神田アートスポット

カルチャーが根付く街「神田」には独自の切り口でアートを極める個性豊かなスポットが点在！



Kanda
SPOT 01
Nishi-Cho

ギャラリーかわまつ

海外巨匠作家の版画や挿画本を中心に扱うギャラリーとして1976年に創業し、現在はストリートアートにも力を入れる。展示内容は2週間ほどでコンスタントに入れ替わり、海外作家を招いた展示も随時開催。店頭で販売している作品やポスターはオンラインでも購入が可能です。「ストリートアートの世界は、まだまだ公になっていない素晴らしい才能を持ったアーティストたちが数多くいます。お気に入りの作家さんを発掘する気持ちでぜひお越しください！」(代表・川松さん)外壁に描かれた、ニック・ウォーカーやマーティン・ワトソンなど新進気鋭のストリートアーティストたちの壁画も必見！

Information

千代田区神田神保町2-12-1
11:00～19:00(土は18:00)、
日祝休
※当面の間17:00までの営業
(以降は予約制)
<https://gallery-kawamatsu.com>



Tuco・Tabby・Roamcouch・Johnman氏による日仏英澳、気鋭ストリート作家によるグループ展『Street Summit 2021』の展示風景。



Kanda
SPOT 02
Nishi-Cho

UCHIGO and SHIZIMI Gallery

神保町で不動産屋を営みながら、アートコレクターとしての顔も持つ横山第悟氏が2020年にオープンしたギャラリー。展示内容は銀座やNYでアートギャラリーを営むディレクター・和田卓也氏とともに考案。ベテラン作家だけでなく、才能と情熱を持った若き芸術家の作品も多く扱う。「ここは、海外でもチャレンジできる力のある作家さんと作り上げている空間で、フレッシュで大胆な若手作家の作品からはただならぬパワーを感じられます。神保町界隈には出版社も多いことから、雑誌とのタイアップを企画するなど、地の利を生かしてより深く作家さんを知ってもらう機会を作っていきたいです」(ディレクター・和田さん)。

Information

千代田区神田神保町2-11-4
月～土 10:00～18:30
日祝休
※営業時間及び休館日は
展覧会毎に異なります。
www.uchigoshizimi.com



台湾在住の彫刻家ファン・ポーレン氏による『黄柏仁彫刻展』の展示風景。台湾犬をモデルに制作されたブロンズ彫刻シリーズ『The Dog's Notes』が並ぶ。

展示会情報

2021年7月30日(金)～9月4日(土)には、『日輪展 讃岐國分寺 大日如来制作プロジェクトで出会った作家たち』が開催！



Kanda
SPOT
03

Nishi-Kyo

TETOKA

もともとは駐車場兼倉庫だったという神田の古屋をセルフリノベーションした「TETOKA(手と花)」は、カフェとギャラリーを併設したオルタナティブスペース。古本や古道具、器、オブジェ、版画、ポスター、古写真など、“都市工芸”と名付けられたアノニマスな品々を展示販売。老若男女問わず、アートに詳しくない人でもふらっと入りやすい雰囲気が魅力です。「作家さんとお茶を飲みながら気軽に話していただける空間。よりアートを身近に楽しんでいただければと思います(店主・小林さん)。また、作家さんのDJイベントやトークショー、水産物即売会、陶芸教室など一風変わった催しも要チェックです!

Information

千代田区神田司町2-16-8 1F
15:00~20:00(L.O.19:00)
水曜日定休
<http://tetoka.jp>



絵葉書や旅物のコレクションも展示する、太田京子氏による「paper tour紙の旅 vol.2【紙景】」の展示風景。



Kanda
SPOT
04

Nishi-Kyo

MANGA ART HOTEL, TOKYO

だらだらとただ好きなだけマンガ漬けになれる、“眠れないホテル”。見た目・内容ともにアート性の高い5000冊以上(700タイトル)の漫画を選びすぎ。漫画のアートワークが存分に愛でられるギャラリーのような客室エリアは、秘密基地のように入り組んだ造りで、クローズドな個室では漫画を読みながら心地いい敗北感を味わえる。男性フロア、女性フロアで漫画のセレクトも異なり、12~19時はフロアの行き来も自由。「滞在中のお客様の読書量は、1泊で平均20冊ほど。満室でも紙をめくる音が聞こえるほど、みなさん没頭して漫泊を楽しんでいます(代表・御子菜さん)」

Information

千代田区神田錦町1-14-13
LANDPOOL KANDA TERRACE
4F・5F
<https://mangaarthotel.com>



2ヶ月に一度は約200冊(70~80タイトル)の漫画を入れ替え。抜群の選書センスも評判の理由。

テラススクエアでは、パブリックスペースを活用したフォトエキシビジョンを開催中。

写真家がとらえた一瞬、そして街の様子とは。

テラススクエアフォトエキシビジョン

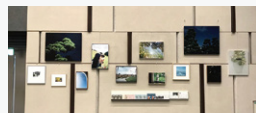
2021年8月23日(月)～11月19日(金)
開催日は下記HPにてお知らせします。
<https://ensemble-magazine.com>



A walk of a seeker

今回は同世代の友人が本展のために執筆してくれたショートショートを軸に作品を製作しました。テーマは「ひたすら自分に向き合う人」。展示作品は大判のモノクロ写真を中心に構成し、全て本展のために撮り下ろしたものです。新しいアプローチの展示ですので、是非多くの方に見ていただきたいと思っています。

今回展示を行う神保町は良い本屋、良い喫茶店、良い居酒屋もあって大好きな街。なかでもよく訪れる「小宮山書店」さんでは、いつも良い刺激をもらっています。



テラススクエア
東京都千代田区神田錦町3-22

池谷陸 Riku Ikeya

2000年生まれ。ランドスケープ、ポートレイトを中心に、ブランドのルックブックや広告分野で活動中。JALから新たに出たLCC「ZIP AIR」の全ジュエルを手がける。2020年には、個展「Everything is Connected 2 - CHOICE」を開催した。

Instagram : @ikyri_

HP : www.rikuikeya.com

豆香房

神田ばとんりれえ

KANDA BUTTON RELAY
... 第3回 ...

老舗コーヒー店がおすすめる！
神保町の老舗ラーメン屋



代表
田村保之さん



店主
沢木昭司さん



「連日、常連さんと賑わっている伊峡さんは、ラーメン激戦区の神保町のなかで私が一番好きなラーメン屋さんです。豆香房の事務所からほど近くにあるので、サクッとお昼を食いたいときによく訪れます。私がいちばん頼むのは、王道のシンプルなラーメン。あっさりとした味付けは何回食べても飽きのこない味です。このご時世にラーメン1杯450円というのは本当にすごいことで、お客さん思いの良いお店だなと思います(田村さん)。

豆香房 神保町店

常時40種類ほどの豆が手に入る、自家焙煎コーヒー店。人気の日替わりホットは、1日3回、2種類ずつ提供。神保町や水道橋界隈で全4店舗を構える。

千代田区神田神保町1-39-9

03-3518-4123

月～金 7:30-18:30、土 9:00-17:30、日 12:00-17:00

祝日定休

「令和元年6月にすずらん通り近くのこの場所へ引っ越してきました。昭和41年に創業して以来、変わらないラーメンを提供し続けています。それはこの味を求め続けてくださっているお客さんを大切にしたいから。ラーメン作りはスープの味がなによりも重要で、朝は7時前には来て仕込みをしています。小銭で手軽に食べられるのがラーメンだから1杯450円。近所の学生さんにもサラリーマンの方にも気軽に気持ちで食べにきてほしいですね(沢木さん)。

伊峡

「半ちゃんラーメン」の聖地とも慕われる、昭和41年創業のラーメン屋。うまい、安い、早いをモットーに営む、家族経営のアットホームなお店。

千代田区神田神保町1-17-6

03-3294-0279

11:00～16:00

日定休

靖国通り開通以前はメインストリートだった「神田すずらん通り」。そんな歴史ある商店街でもひとときわ目を引くのが、ここ「文房堂」。多くの文豪や画壇とともに歩んできた、134年にもなる歴史を紐解きます。

文房堂

神保町の老舗画材文具店で、時代を超えた心意気に触れる。



文房堂は明治20年、創業者・池田治朗吉氏の遠縁にあたる早矢仕有的氏（「丸善」の創業者）が経営していた「中西屋書店」の一部を間借りし創業しました。池田氏と早矢仕氏は共に福沢諭吉氏の門下生。西洋文化を推奨していた福沢氏は、これからの時代を見据えて丸善には輸入文具を、文房堂には輸入画材を勧めたといえます。

創業当初は輸入文具のみを取り扱っていた文房堂は、間もなくしてオリジナルの大学ノート、5線紙の販売を開始。これらは、多くの文豪たちに愛される名品となりました。やがて、自ら水彩画を描いていたという池田氏は、安定した国産の良質な絵具も必要だと考えるようになり、国産のオリジナル油絵具を開発。現在は画材・文房具の取り扱いはもちろんのこと、時代のニーズに合わせた雑貨の販売やギャラリー・カフェの併設など、多彩な店舗へと発展を遂げました。

現在の建物は、1922年に竣工。竣工当時の4連のアーチ窓や古いドイツ製のレンガ、スクラッチタイル、美しい彫刻装飾などの外壁は100年近く経った今でも健在で、そんな趣深い建物は「千代田区景観まちづくり重要物件」にも指定されています。

今と昔を写真で比較

昔の写真は1917年のもの。1922年に竣工した建物は鉄筋構造で関東大震災でも倒壊も免れた。今は外壁のみ残る。



HIGHLIGHTS



日本初の専門家用油絵の具を作ったのは「文房堂」!

ロングセラー商品である「アーティスト油絵具」は、日本初となる国産の油絵具として1921年に販売開始。数多くの画家より絶賛された深みのある色合いで、長期保存にも優れている。また、店頭で販売中の『文房堂アーティスト油絵具使用感想文画家99名』には、名だたる画壇たちの感想もまとめられている。

HIGHLIGHTS

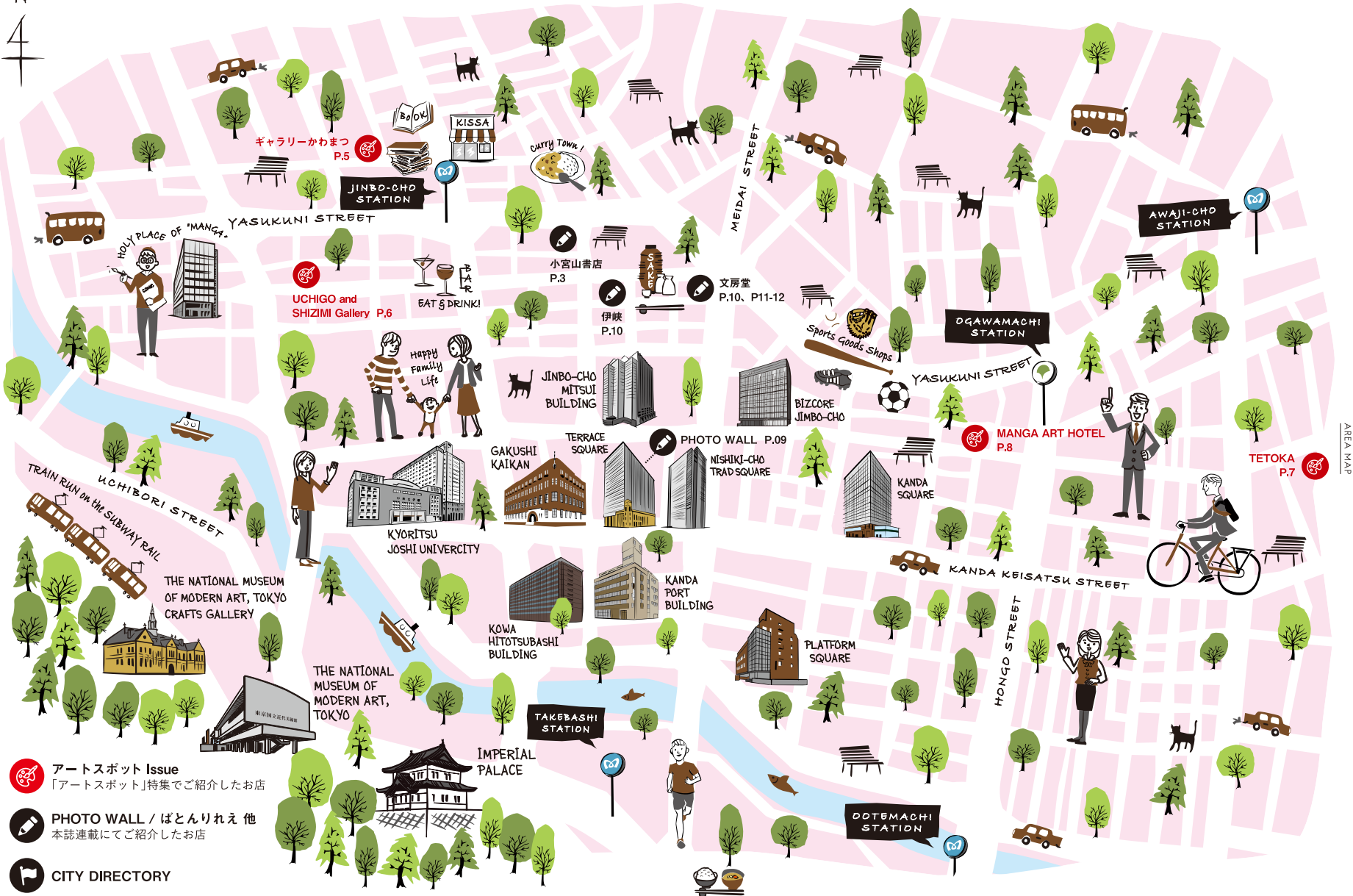


多くの文豪に愛された文房堂製原稿用紙が復刻!

明治から昭和初期にかけて販売された、文房堂オリジナルの原稿用紙。現在、3タイプの原稿用紙が寸法、マス目、活版文字など、当時のまま復刻。表紙はそれぞれ有島武郎「旅する心」、横溝正史「鬼火」、中原中也「春」の直筆原稿を写真製版により印刷。本物の原稿を手にしたような感動が味わえる。

文房堂

千代田区神田神保町1-21-1
10:00~19:30(ギャラリーのみ18:30終了) 03-3291-3441



 **アートのスポット Issue**
「アートのスポット」特集で紹介したお店

 **PHOTO WALL / ばとんりれえ 他**
本誌連載にてご紹介したお店

 **CITY DIRECTORY**



11色マップを覗いてみるだけで中身がわかります

